

日守地下式横穴墓群Ⅱ

平成26年度不時発見に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2024年3月

宮崎県西諸県郡
高原町教育委員会

序 文

高原町は、霧島山麓高千穂峰の裾野にあり、古くから神武天皇御降誕の地として知られ、様々な伝承や地名が残っているなど、歴史に恵まれた町です。

高原町では平成 28 年度から県営畠地帯総合整備事業が進められ、それに伴い埋蔵文化財発掘調査が毎年のように実施されるなど、町民の埋蔵文化財への関心が高まっています。

町内には、宮崎県指定文化財である高原町古墳や、高原町指定文化財である日守地下式横穴墓群など、古墳時代の遺跡が多数存在しています。なかでも地下式横穴墓は、南九州を代表する古墳時代の遺構として全国から注目を浴びており、全国の大学機関等で多くの研究が行われているなど、地域にとつて重要な遺構です。

今回、平成 26 年度（2015 年 2 月）に調査された高原町指定文化財：日守地下式横穴墓群内の 1 基の地下式横穴墓について、国庫補助を受けて調査報告書を刊行する運びとなりました。本報告書が今後活用され、高原町の歴史解明の礎に資することを期待しております。

最後になりましたが、調査に協力していただきお世話になりました皆さんに、この場を借りて御礼申し上げます。

令和 6 年 3 月

高原町教育委員会
教育長 西田 次良

例　　言

1 本報告書は、平成 26 年度に高原町臨時職員面高哲郎が調査した成果を元にしている。

2 平成 26 年度当時における調査関係者は、次の通りである。

調査主体

高原町教育委員会

教　育　長	江田　正和
教育総務課長	田上　則昭
社会教育係長	中原　圭一郎
主幹	瀬戸山　豊子
副主幹	中嶋　雄二
主事	江南　智玄
主事	林　史弥
非常勤職員	面高　哲郎
現地指導　　鹿児島女子短期大学　教授	竹中　正巳

3 令和 5 年度における調査関係者は、次の通りである。

調査主体

高原町教育委員会

教　育　長	西田　次良
教育総務課長	中別府　和也
文化財係長	大學　康宏
主査	吉元　伸一

4 本書の編集は、吉元が行った。

5 遺構名は、発見年度に基づき、日守 26 – 1 号墓とする。

6 調査の記録類、出土遺物は高原町教育委員会が保管している。また、人骨は鹿児島女子短期大学にて保管されている。人骨分析については、別報告する計画である。

7 調査日は平成 26 年度 2 月上旬であるが、正確な日数は不明である。

8 遺構の位置については、未測量のため、正確な位置は不明である。

目次

第1章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の歴史的環境及び立地	1
第2章 調査の概要	2
第1節 調査の概要	2
第2節 調査結果	2
(1) 基本層序	2
(2) 遺構	2
(3) 鉄製品	3
(4) 土器	3
(5) 遺構の年代観	4
第3章 まとめ	4

挿図目次

図1 高原町地下式横穴墓群位置図	1
図2 竪坑土層図	2
図3 日守地下式横穴墓群周辺地形・遺構配置図	5
図4 平面	6
図5 竪坑断面	6
図6 主軸左側断面	7
図7 主軸右側断面	7
図8 玄室断面	8
図9 玄室後方断面	8
図10 地下式横穴墓展開図	9
図11 日守25号地下式横穴墓出土鉄器実測図	10
図12 日守25号地下式横穴墓出土鉄器実測図	11
図13 土師器底部片実測図	14
図14 出土遺物写真	14
図15 遺跡遠景	15
図16 玄室天井束柱	15
図17 人骨埋葬状況	16
図18 羨門入口より内部を羨む	16

表目次

表1 遺構法量表	3
表2 鉄器法量表	12
表3 土器観察表	13



図 1 高原町地下式横穴墓群位置図

第 1 章

1 調査に至る経緯

2015 年 2 月、町指定文化財である日守地下式横穴墓群に隣接する私有地で農作業中の住民より、地面が陥没したとの連絡が教育委員会へあった。それを受け、当時非常勤職員であった面高哲郎が現地に赴き、地下式横穴墓 1 基であることを確認した。面高は続いて発掘調査を実施し、遺物や人骨の残存を確認した上で、遺構実測図、土層図、写真等を記録した。

しかし、その後令和 5 年度に至るまで報告書が刊行されていなかったことから、令和 5 年度に国庫補助金を利用して調査報告書を作成する運びとなった。

調査された地下式横穴墓は、発見時から玄室天井が崩落していたものの、内部は比較的良好に残っていた。よって竪坑上面を検出した後、埋土の土層を確認し、羨門から内部を羨む方法で調査を実施し、調査終了後は玄室内部にシラスを充填して保護している。出土した遺物は高原町教育委員会にて保管している。出土人骨については、鹿児島女子短期大学竹中正巳教授が大学へ持ち帰り保管・研究している。

2 遺跡の歴史的環境及び立地（図 1、3）

西諸県郡高原町が所在する宮崎県南西部では、地下式横穴墓と呼ばれる古墳時代の遺構が多く残存している。地下式横穴墓はえびの盆地から宮崎平野、大隅半島まで分布する、南九州古墳時代を代表する遺構として知られ、墓の内部に甲冑や鉄鏃等の武具や貝輪といった装飾品が副葬されることが多いことより、多くの情報を得られる貴重な墓である。

高原町では、日守地下式横穴墓群をはじめ、立切地下式横穴墓群、旭台地下式横穴墓群、湯ノ崎地下式横穴墓群の 4 遺跡が確認されている。

日守地下式横穴墓群は、高原町南東部、高千穂峰を南西に望む標高約 200m の段丘に所在している。昭和 44 年、九州縦貫自動車道建設に伴う緊急分布調査にて発見されたのが嚆矢となつて

いる。その後、畑作や採土により発見数が増加し、加えて天理大学が平成9年にレーダー探査を実施した結果、32基の墓が確認されている。

高原町内に存在する墓群の特徴として、家屋構造をもつ玄室が多く、玄室内部は朱で装飾されるものが多い。副葬品は、鉄鏃、蛇行剣といった鉄製品や、貝輪が発見されている。

遺跡は町指定文化財として指定されており、一部の土地は寄付採納によって町有地となっている。町有地部分の遺構については未調査のまま現況保存されているが、町有地周辺の畑からも地下式横穴墓が発見されていることから、畑作に伴う発見が今後増加すると思われる。

第2章

1 調査の概要

日守26-1号墓の調査は、2015年2月、約10日間かけて当時高原町非常勤職員であった面高哲郎が実施した。当時の記録を参考に調査手順を復元すると、まず竪坑を半裁し、埋土データを収集した後、羨門の閉塞石を撤去し、玄室内部を調査している。玄室は束柱や棚を有する明確な家形を成しており、鉄剣、鉄鏃、鉋、刀子が副葬され、人骨3体の一部が残存していた。また、玄室棚部では土師器片が出土している。

当時の調査資料として、簡易な実測図、写真、遺物が保管されていた。残されていた調査成果と、業者委託にて作成した遺構3D図をもとに、本報告書を作成した。なお、墓群内における本遺構の位置や標高といった測量データは、当時未測量であるため、不明である。

2 調査結果

(1) 基本層序 (図2)

図2は竪坑を主軸より左にみた土層図である。基本的に同一層であるが、アカホヤ、褐色土ブロックの大きさ、粒子の大きさによりI～VI層に分類している。I層は黒色土である。ウシノスネ火山灰とアカホヤが混ざる。II層は黒褐色土である。ウシノスネ火山灰、アカホヤが混ざる。III層は黒色土である。混ざりが少ない。IV層は黒褐色土である。混ざりが少ない。V層は黒褐色土である。VI層は褐色土である。

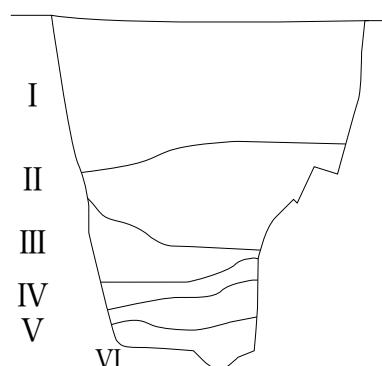


図2 竪坑土層図 S = 1/40

(2) 遺構 (図4～10、表1)

竪坑 墓群内における当遺構の位置は測量されておらず、風景写真から推測できるおよその位置しか判明しない。法量は、竪坑検出面は玄室側を正面に縦1.53m、横2mの方形をしている。底部は、縦1.24m、横1.19mの方形であり、正方形に近い。深さ1.7mを有し、四隅に明確な稜を有する。竪坑内部に築造時の足掛け穴とみられる窪みがある。

羨門 羨門は上部が崩落している。閉塞石の配置から、高さ0.82m、横0.69mが判断できる。

閉塞は礫閉塞である。竪坑と玄室を結ぶ部分を羨道と捉えると、奥行 0.37m、幅 0.62m、高さ 0.8m である。

玄室 玄室は縦 1.30m、横 1.64m の方形をなし、右袖である。最大高は 1.33m、東柱と細狭い棚を有する家形玄室である。天井が崩落しているが、残存状況は比較的良好である。

表 1 遺構法量表（単位：m）

竪坑縦	竪坑横	竪坑深	玄室縦	玄室横	玄室高	羨門高	羨門横
1.53	2	1.7	1.3	1.64	1.33	0.82	0.69

（3）鉄製品（図 11、12、表 2）

14 点の鉄製品が玄室内部で発見された。遺物のそれぞれの位置は、当時の実測図と写真から 5 点は判明するが、それ以外のものについては正確性がないため不明である。**1、2** は刀子である。**1** は最大長 13cm、最大幅 2.6cm、最大厚 2.6cm、刃部長 9.6cm、刃部幅 1.6cm である。玄室奥壁下部、鉄剣の横に置かれている。柄部は鹿角製とみられる。**2** は最大長 12.3cm、最大幅 2.0cm、最大厚 1.3cm、刃部長 6.5cm、刃部幅 1.0cm である。玄室左部に平行して置かれ、刃部は羨門を向いている。鹿角製と思われる柄部を有する。**3、4、5、6、7** は鉄鎌（圭頭鎌）である。**3** は最大長 6.4cm、最大幅 2.2cm、最大厚 1.0cm、刃部長 4.5cm、刃部幅 1.1cm である。**4** は最大長 6.1cm、最大幅 1.9cm、最大厚 1.0cm、刃部長 3.4cm、刃部幅 1.8cm である。**5** は最大長 13.3cm、最大幅 2.6cm、最大厚 1.2cm、刃部長 6.0cm、刃部幅 2.6cm である。奥壁棚から落下したものと思われ、刃部は頭部側を向いている。**6** は最大長 7.8cm、最大幅 2.2cm、最大厚 1.2cm、刃部長 5.1cm、刃部幅 2.1cm である。茎部間近に山形闇を有する。**7** は最大長 16.7cm、最大幅 4.2cm、最大厚 2.3cm、刃部長 10.3cm、刃部幅 4.2cm である。**8** は茎部の小片である。**9** は圭頭鎌である。最大長 11.9cm、最大幅 4.1cm、最大厚 1.2cm、刃部長 4.0cm、刃部幅 1.1cm である。**10** は鳥舌鎌である。最大長 16.6cm、最大幅 3.0cm、最大厚 1.4cm、刃部長 10.2cm、刃部幅 2.6cm である。**11** はヤリガンナである。最大長 17.7cm、最大幅 2.3cm、最大厚 2.3cm、刃部長 8.5cm、刃部幅 4cm である。羨門出口中央付近にあり、刃部を外側に向いている。**12** は刀子である。最大長 20.1cm、最大幅は鋒のため判明せず、最大厚 1.3cm である。刃部長 7.2cm、刃部幅 0.9cm である。**13** は鉄鎌（圭頭鎌）である。最大長 13.3cm、最大幅 3.7cm、最大厚は不明である。刃部長 7.0cm、刃部幅 3.8cm である。**14** は鉄剣である。最大長 47.4cm、最大幅 5.1cm、最大厚 2.5cm、刃部長 47cm、刃部幅 3.1cm である。玄室奥壁に平行し、剣先は頭部側を向いている。木製の鞘がよく残存している。刀身が緩く湾曲しており、鉄刀もしくは蛇行剣の可能性が考えられる。

（4）土器（図 13、表 3）

玄室内にて、7 点の土師器片が出土した。明確な器種がわかるのは、**15** の壊底部片のみである。**16、17、18、19、20、21** は胴部片だと思われる。

(5) 遺構の年代観

地下式横穴墓は、副葬遺物によりおおよその築造年代を推定できる。中でも鉄鏃を利用した編年が盛んであり、編年も複数案あるが、圭頭鏃から長頸鏃へという流れは基本的に同じである。今回発見された圭頭鏃は抉りが反り返る形状をしているものや鳥舌鏃が含まれること、及び長頸鏃が見当たらないことより、5世紀初期の築造であると考えられる。

第3章　まとめ

平成26年度に不時発見により調査された日守地下式横穴墓群の26-1号墓について、内部から鉄製品14点、土師器片7点、人骨3体が発見された。遺構の形態は、明確な家屋構造を有する家形系地下式横穴墓に分類でき、玄室平面プランは右袖をなす。方位は玄室を主軸とすると西北西を向いていた。遺物として、鉄製品は鉄鏃主体の中、鉄劍が1振り出土した。土師器片は、全て小片ながらも、1点は底部片であることが確認できた。築造時期は、出土圭頭鏃の形状より、5世紀初期頃のものと推定できる。

参考文献

- 高原町教育委員会 1999『日守地下式横穴墓群・大谷遺跡表採縄文土器資料』高原町文化財調査報告書第4集
- 東憲章 2001「日向 宮崎 の横穴墓」九州の横穴墓と地下式横穴墓 第II分冊 pp.109 – 112
九州前方後円墳研究会
- 宮崎県教育委員会 1996 「広原地区遺跡の調査」『宮崎県文化財調査報告』第39集
- 宮崎県教育委員会 1997 「県内遺跡の調査一覧」『宮崎県文化財調査報告』第40集
- 宮崎県埋蔵文化財センター 1997 『平成8年度埋蔵文化財発掘調査一覧』
- 和田理啓 2001「日向の地下式横穴」『九州の横穴墓と地下式横穴墓』第I分冊 pp.607 – 621
九州前方後円墳研究会

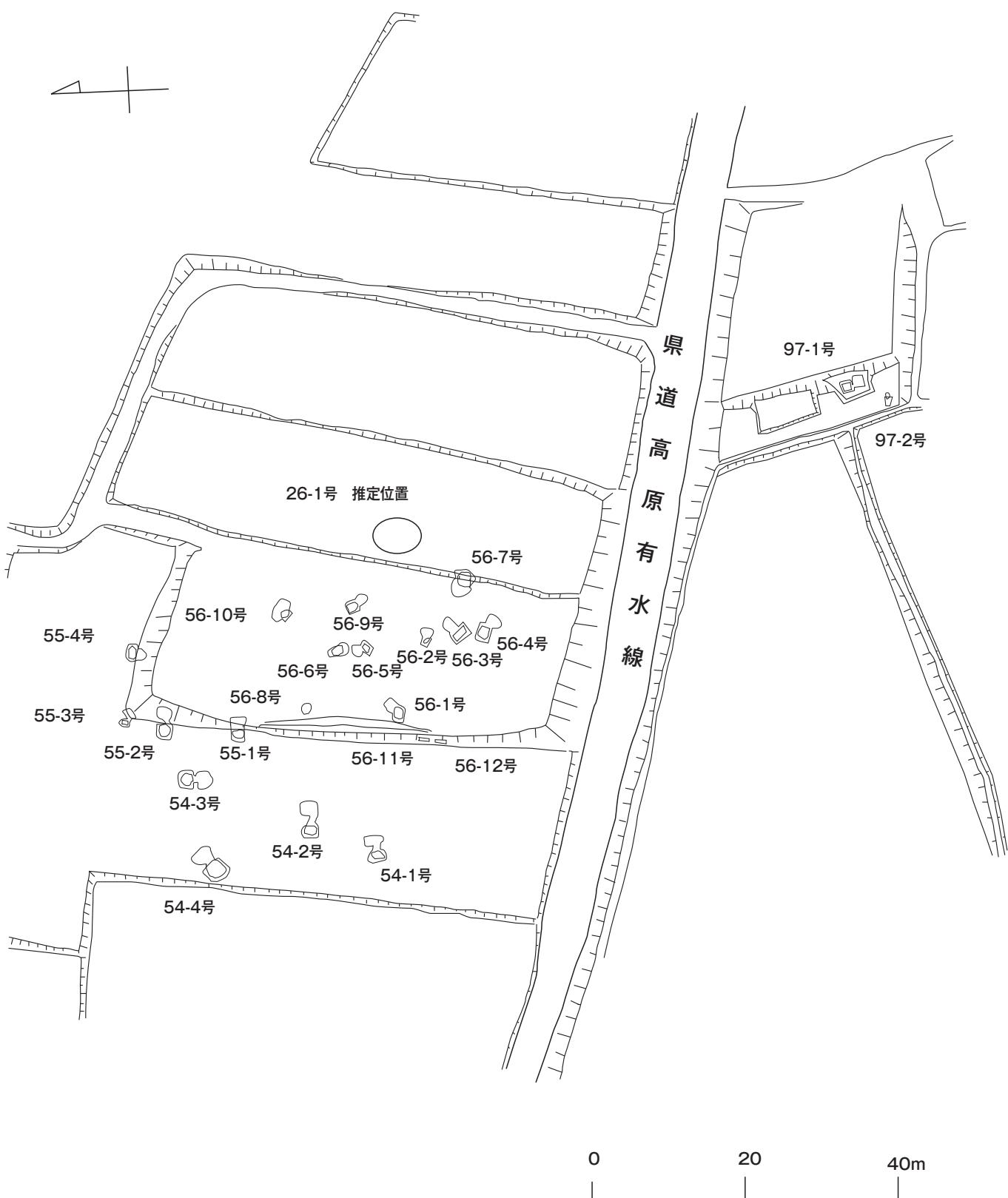


図3 日守地下式横穴墓群周辺地形・遺構配置図

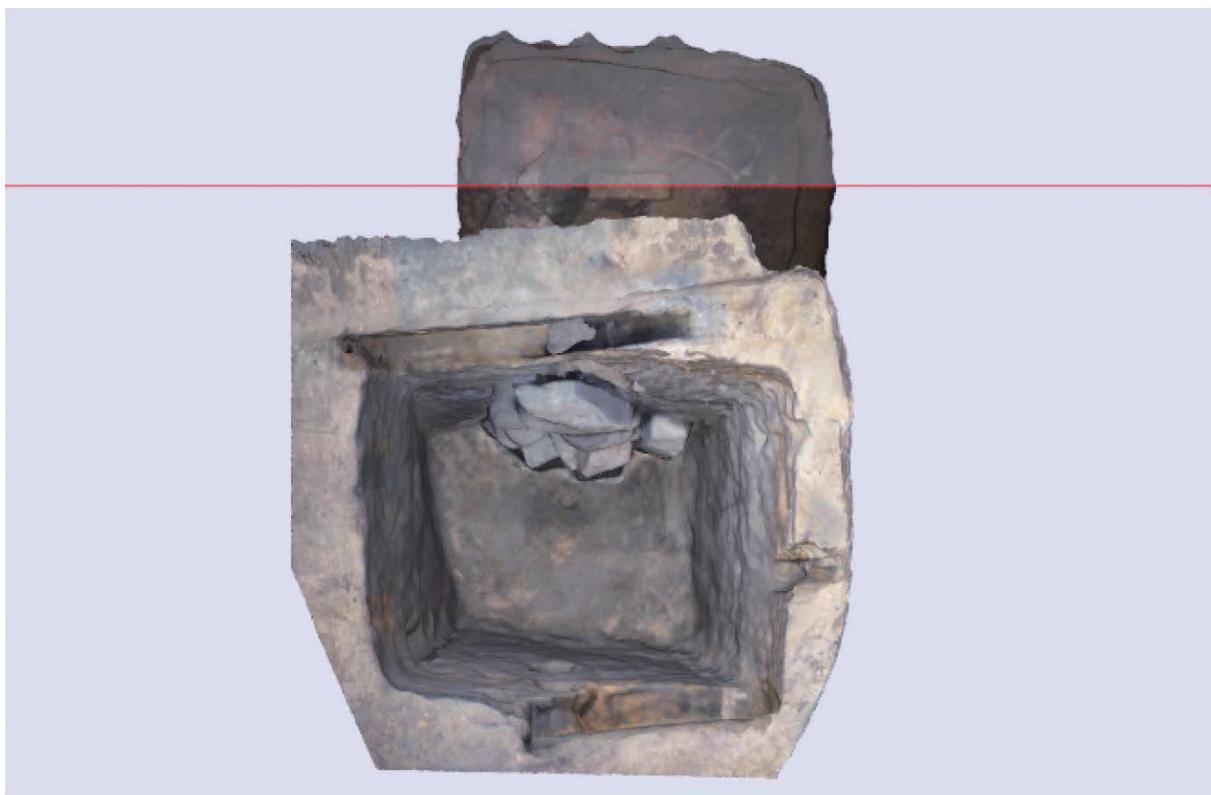


図4 平面



図5 縱坑断面

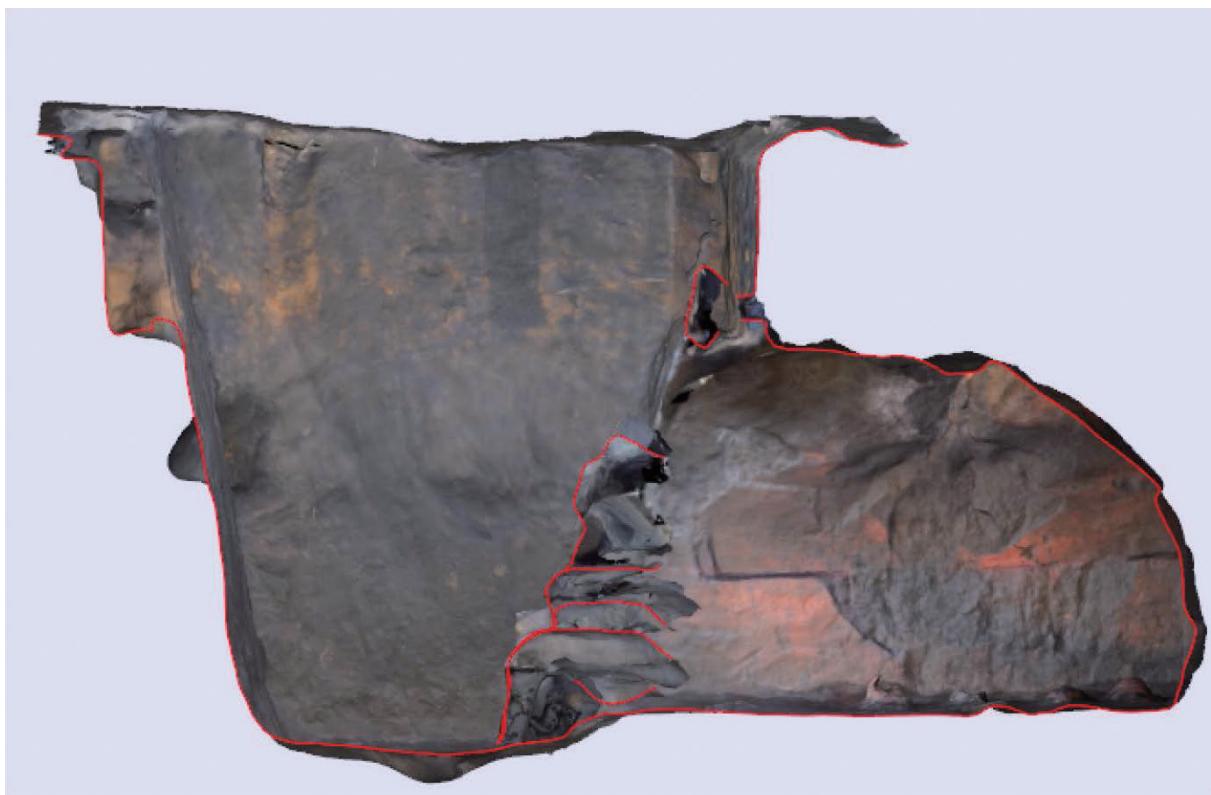


図6 主軸左側断面

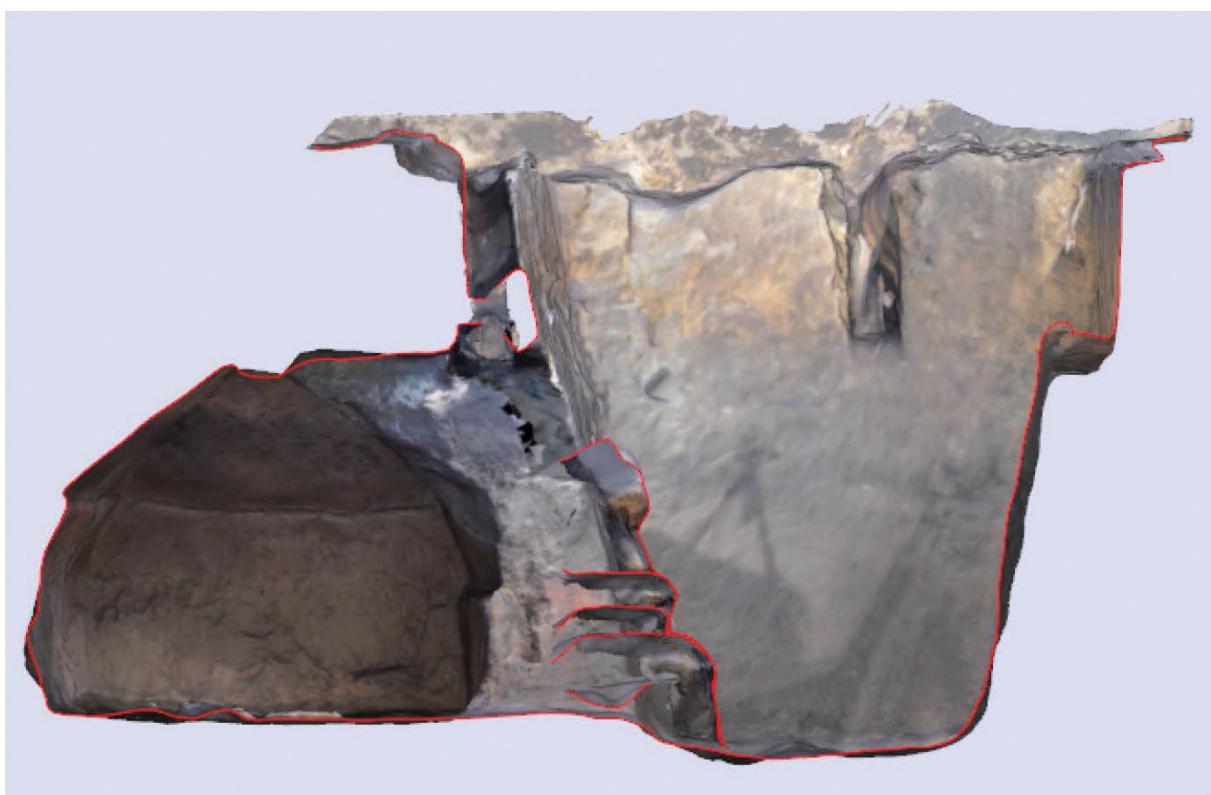


図7 主軸右側断面



図8 玄室断面

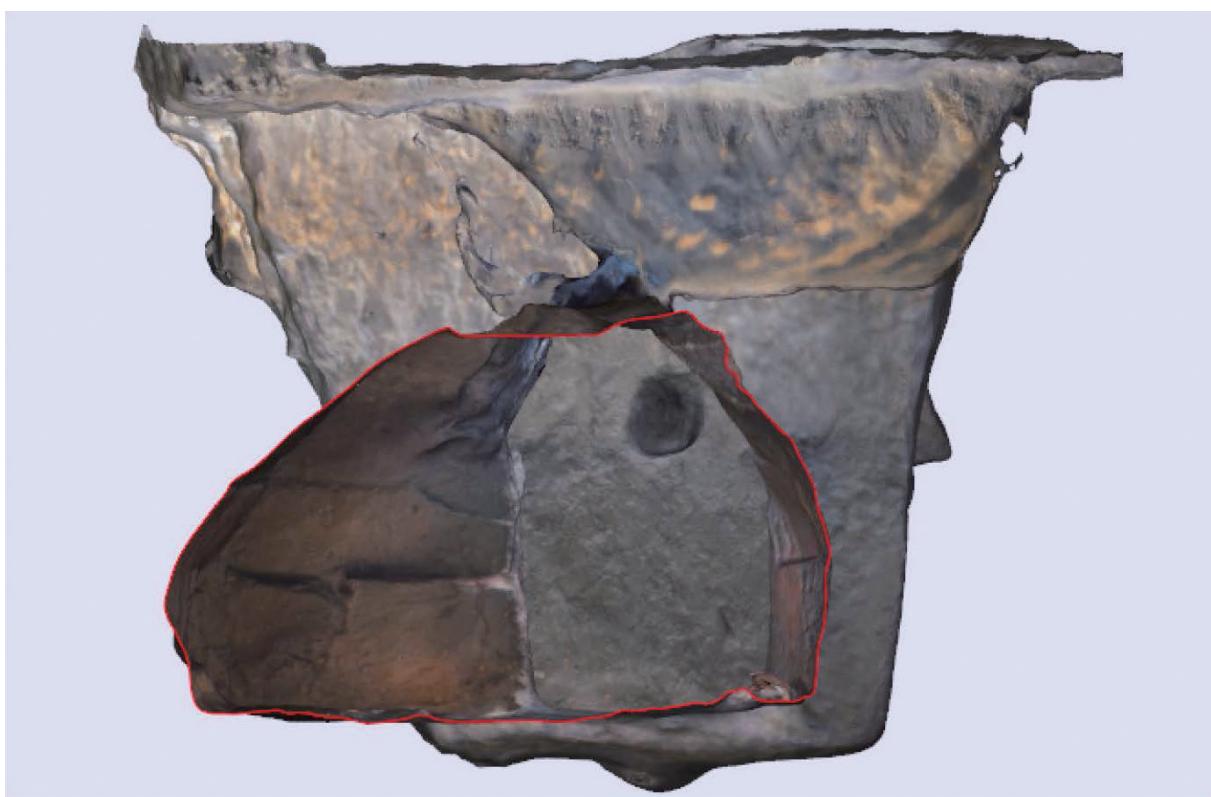


図9 玄室後方断面



図 10 地下式横穴墓展開図 ($S = 1/40$)

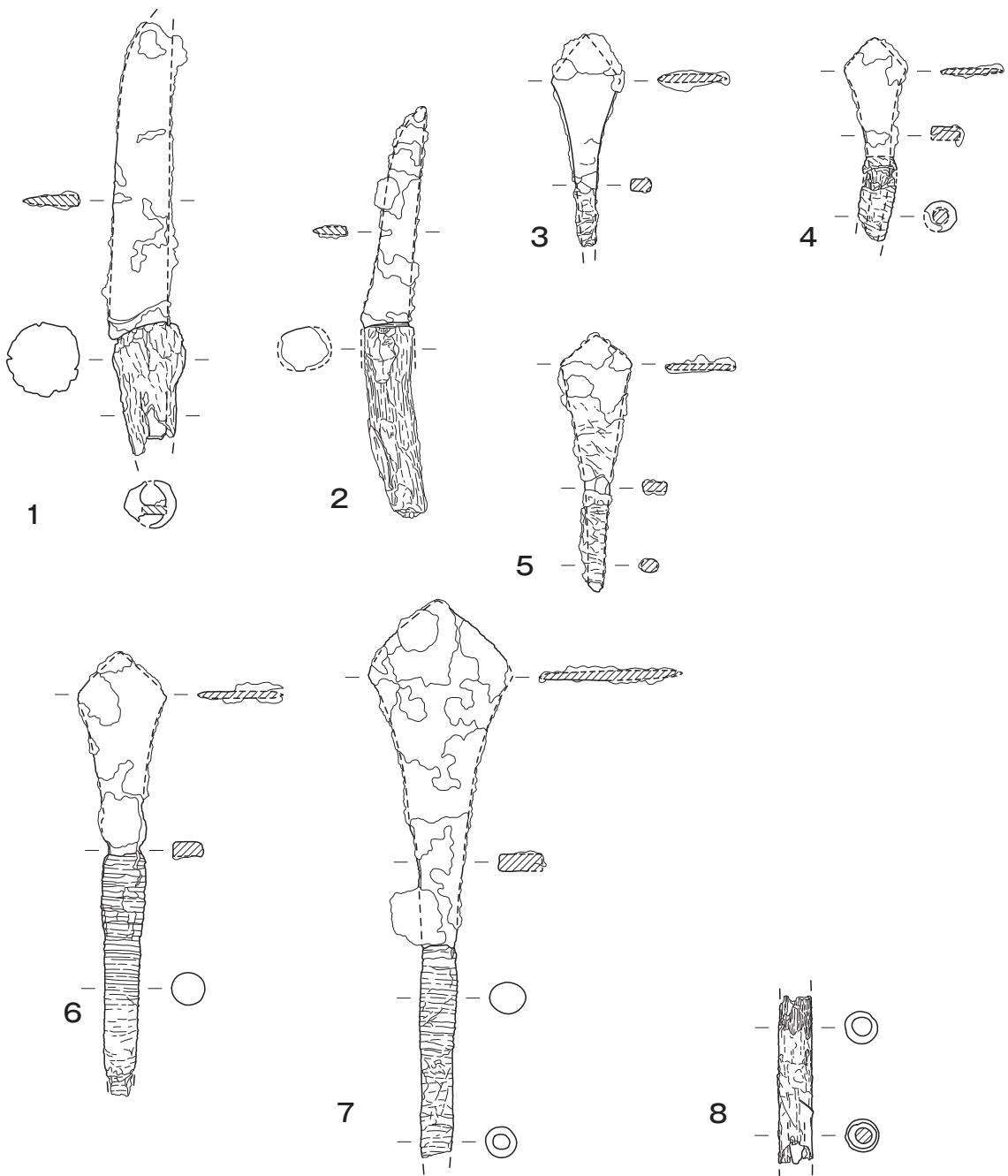


図 11 日守 25 号地下式横穴墓出土鉄器実測図 (S = 1/2)

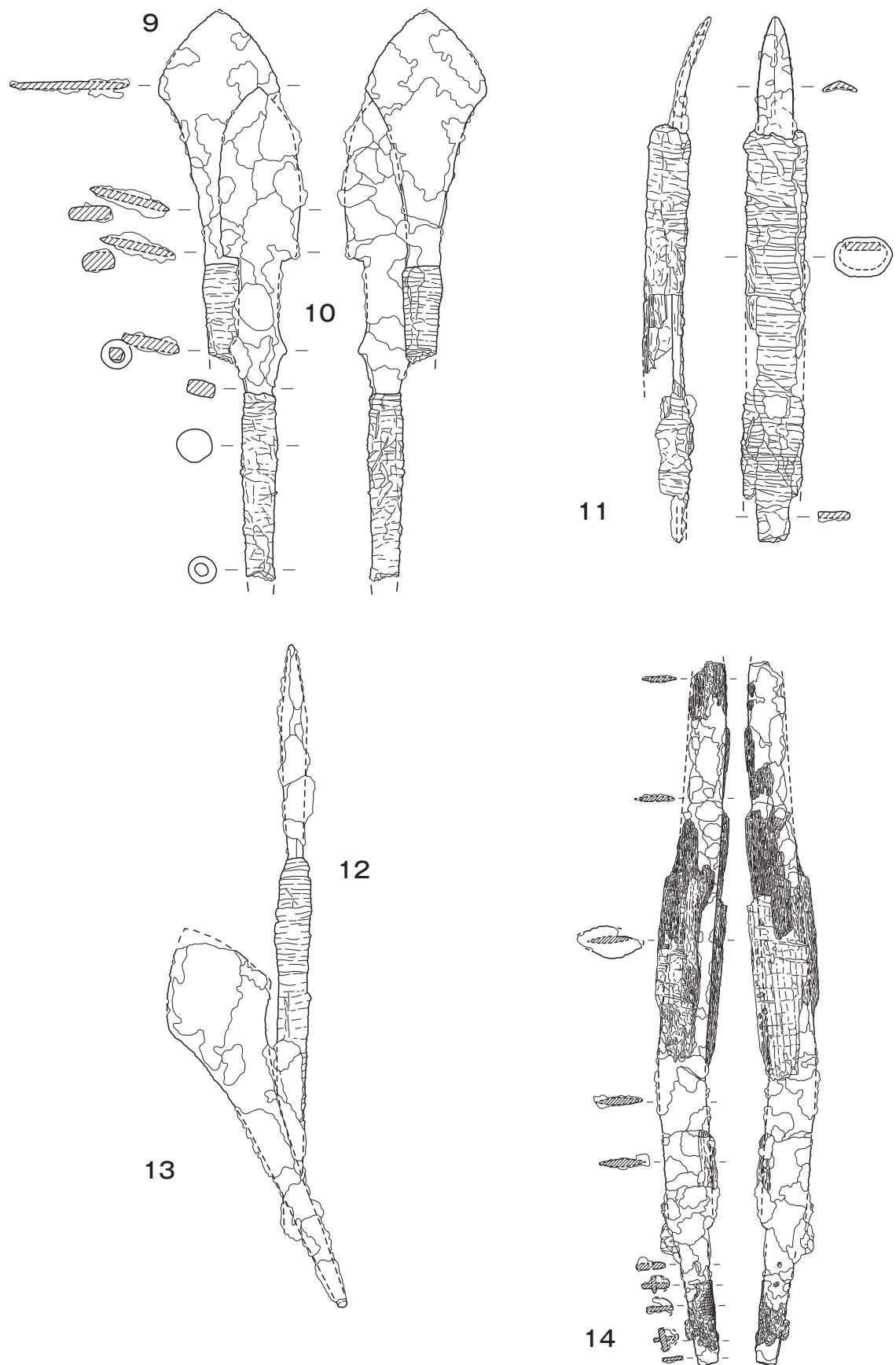


図 12 日守 25 号地下式横穴墓出土鉄器実測図 (S = 1/2、14 のみ 1/4)

表2 鉄器法量表 (単位: cm)

遺物番号	種別	出土位置	最大長	最大幅	最大厚	刃部長	刃部幅
1	刀子	3号人骨頭上棚より落下?	13.0	2.6	2.6	9.6	1.6
2	刀子	3号人骨頭部横	12.3	2.0	1.3	6.5	1.0
3	圭頭鎌	3号人骨頭上棚より落下?	6.4	2.2	1.0	4.5	2.1
4	圭頭鎌	3号人骨頭上棚より落下?	6.1	1.9	1.0	3.4	1.8
5	圭頭鎌	奥壁中央棚より落下?	13.3	2.6	1.2	6.0	2.6
6	圭頭鎌	3号人骨頭上棚より落下?	7.8	2.2	1.2	5.1	2.1
7	圭頭鎌	1号人骨腰左側	16.7	4.2	2.3	10.3	4.2
8	頸部	—	5.0	1.1	1.0	—	—
9	圭頭鎌	2. 3号人骨横棚より落下?剣先の左	11.9	4.1	1.2	4.0	1.1
10	鳥舌鎌	2. 3号人骨横棚より落下?剣先の左	16.6	3.0	1.4	10.2	2.6
11	鉋	羨道左	17.7	2.3	2.3	8.5	4
12	刀子	—	20.1	—	1.3	7.2	0.9
13	圭頭鎌	—	13.3	3.7	—	7.0	3.8
14	鉄劍	奥壁中央棚の下	47.4	5.1	2.5	47.0	3.1

※刃部幅は最大幅を計測した。出土位置については、調査者が残したコメントである。

表3 土器観察表

遺物番号	出土位置	種別	器種	器色・表	器色・裏	調整・表	調整・裏	胎土
15	玄室棚	土師器	壺	にぶい橙 Hue7.5YR 6/4	灰黄褐 Hue10YR 6/2	ヨコナデ	ヘラケズリ	1mm前後の透明砂粒を含む
16	玄室	土師器	—	明黄褐 Hue10YR 7/6	浅黄橙 Hue10YR 8/3	ヨコナデ	ヨコナデ	精良
17	玄室	土師器	—	明黄褐 Hue10YR 7/6	浅黄橙 Hue10YR 8/3	ヨコナデ	ヨコナデ	精良
18	玄室	土師器	—	にぶい黄橙 Hue10YR 7/3	浅黄橙 Hue10YR 8/3	ヨコナデ	ヨコナデ	精良
19	玄室	土師器	—	にぶい黄橙 Hue10YR 7/3	浅黄橙 Hue10YR 8/3	ヨコナデ	ヨコナデ	精良
20	玄室	土師器	—	にぶい黄橙 Hue10YR 7/3	浅黄橙 Hue10YR 8/3	ヨコナデ	ヨコナデ	精良 黒色土器?
21	玄室	土師器	—	灰黄褐 Hue10YR 6/2	浅黄橙 Hue10YR 8/3	ヨコナデ	ヨコナデ	精良

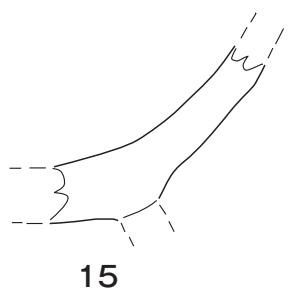


図 13 土師器底部片実測図 ($S = 1/2$)



図 14 出土遺物写真



図 15 遺跡遠景（中央の段丘）



図 16 玄室天井束柱



図 17 人骨埋葬状況



図 18 義門入口より内部を覗む

報告書抄録

ふりがな	ひもりちかしきよこあなぼぐん2						
書名	日守地下式横穴墓群II						
副書名	平成26年度不時発見に伴う発掘調査報告書						
シリーズ名	高原町文化財調査報告書						
シリーズ番号	第29集						
編集者名	吉元伸一						
発行機関	高原町教育委員会						
所在地	〒889-4412 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓392番地						
発行年月日	令和6年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ひもりちかしきよこあなぼぐん 日守地下式横穴墓群	たかはるちょうおおざうしろかわうち 高原町大字後川内	市町村 450413	31°93'04" 付近	131°03'73" 付近	2015.2	5m ²	不時発見
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
日守地下式横穴墓群	包蔵地	古墳時代	地下式 横穴墓	鉄鏃 刀子 鉋 鉄劍 土師器片 人骨	圭頭鏃 底部		
要約	<ul style="list-style-type: none"> ・地下式横穴墓26-1号から、鉄鏃、刀子、鉋、鉄劍、土師器片、人骨が発見された。 ・家形系地下式横穴墓であり、羨門石閉塞、束柱、朱による装飾、棚施設を有する。 ・出土圭頭鏃の形態より、5世紀初期頃の築造と考えられ、既知の墓群の年代観と矛盾しない。 						

高原町文化財調査報告書 第29集
日守地下式横穴墓群Ⅱ

平成26年度不時発見に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2024年3月31日

編集・発行 宮崎県高原町教育委員会
〒889-4412 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓392番地
TEL (0984) 42-1484 FAX (0984) 42-3969
印 刷 (株)長崎印刷
西諸県郡高原町大字後川内 18番地2